

ZoneC コミュニティ

持続可能なコミュニティをコーディネートする 未知への「ためらい」に耳を澄ませる

今、どんな「ためらい」を抱えていますか？もしかしたらそれは、自分の足元を確かめながら、未知の世界に少しずつ踏みだしていくための大切な営みかもしれません。

異文化との出会い、転居、転職、異動、進学、転校、結婚...日常は「ためらい」を生み出す未知への扉に満ちています。ためらいは振り切るべき足踏みに過ぎないのでしょうか。それとも、自然な感情として捉え直し、見逃されてきた価値を見出す契機でしょうか。

前回の **ZoneC** では、「いつもの居場所を離れてみることから開ける可能性」というテーマのもと、馴染んだ日常を離れ非日常の文脈に身を置くことで、いつもと違う視界が開けてくることをわちあいました。

しかし私たちは簡単にはいつもの居場所を離れられず、新たな一步をためらいます。そんな時、未知に飛び込むことこそが「正解」のように思え、踏み出せない自分に後ろめたさを感じてしまいます。また、誰かを迎え入れようとする側にも「ためらい」は生じます。関わり方がわからない戸惑いや、始まろうとしている関係への不安が、私たちを立ちどまらせます。こうして日常は「ためらい」に満ちているにも関わらず、私たちはしばしば、ためらう自分から目を背けます。

「ためらい」は、新たな関係に巻き込まれていくことへの抵抗を引き受けながらも、これまでの歩みを捉え直し、自分が何を大切にし、何を望んでいるのかに気づいていく過程ではないのでしょうか。自らの「ためらい」と静かに向きあうなかで、何かが始まる予感、始めたいことの輪郭が、ぼんやりと浮かび上がってきます。そんなかすかな気配を感じ取ること、新たな出会いに自らを開いていけます。一人ひとりが自分の歩みを大切にしながら未知へと向かうとき、自然と他者との関係も動き始め、やがてコミュニティの新たな可能性が開けていくはずです。

今回の **ZoneC** では、多文化のあいだで生きる人たちの語りを手がかりに、私たちの中にある「ためらい」が発する声に耳を澄ませてみたいと思います。ためらいを前に、目を逸らさず、急がず、佇んでみる。語られなかった声や、ことばにならない沈黙にも耳を澄ませ、寄り添う。自分の歩みを辿り、その奥にある思いや願いをことばにしていく。語りあい、聴きあう。

このような対話を通して、「ためらい」の中に宿る意味と可能性やまだことばにならない兆しを、皆さんとともに見つけていければと思います。一人ひとりの私たちが未知への「ためらい」に耳を澄ませたその先に、新たなコミュニティへの道が見えてくる予感があります。

ZoneC は、地域・学校・企業・NPO・行政など、さまざまなコミュニティにまつわる実践や関心を持つ人たちが集う対話の場です。事例に耳を傾け、小グループで対話し、みんなで気づきをわちあいます。コミュニティに関心のある方なら、世代にかかわらずどなたでもご参加いただけます。ためらいを抱えたままで大丈夫。多様な皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

14:30～14:40 趣旨説明 小林 真由美

14:40～15:20 サントス・チアゴさんと aiMIKI（アイミキ）さんより話題提供・対談

コーディネーター：半原 芳子

15:20～16:00 小グループでの話し合い

16:00～16:15 休憩（チャットタイム）

16:15～16:45 全体共有

16:45～17:15 小グループでの話し合い

17:15～17:40 全体共有と全体セッション～ふり返りと展望～

全体ファシリテーター：富永 良史